

薬学部

School of
Pharmaceutical Sciences

■ 薬科学科 ■ 薬学科 入学定員 計120人



薬学部6年

仁平 瑚子さん

学生 × 学部長

特別対談

デアイとミライ

**どのような研究や学びができるのか
教えてください。**

吉成: 本学部のカリキュラムは、薬のプロフェッショナルとして、地域から世界まで幅広く活躍できる人材の育成を重視しています。低学年から高学年にかけて、薬の性質や作用、人体や病気の仕組みを体系的に学びます。3年生の後期からは全員が研究室に所属し、教員の指導のもと卒業研究に取り組みます。関連する英語論文を読み、最新の研究機器や実験手法を活用した研究を行うことで、講義だけでは得られない思考力・発想力・問題解決能力を養うことができます。

仁平さんは、なぜ薬学部を選んだのですか。

仁平: 元々理科系の科目が好きで、特にその知識が医療分野でどのように応用され、人々の健康に役立っているのかに強い関心がありました。また、国家資格の取得を目指すことで、実際に医療に貢献できる点も大きな魅力でした。こうした理由から、薬学部での学びを通して医療分野で役立つ知識と技能を深めたいと考えました。

吉成: 仁平さんが本学出身の「薬学人」として社会で活躍されることを期待しています。

**現在行っている研究や学びについて
具体的に教えてください。**



仁平: 現在、様々な疾患に関わる脂質や脂肪酸の、重水素を活用した分子プローブの合成を行っています。例えば、脂質代謝に関わる疾患である副腎白質ジストロフィー(X-ALD)は国指定の難病ですが、脂質・脂肪酸の重水素化プローブは病態進展のマーカーとして期待されています。こうした医療の進歩に、少しでも貢献できたら嬉しいです。

吉成: 頼もしいですね。本学部は創薬研究者や指導的薬剤師の養成を第一の目的としています。私自身は有機化学が好きで、学べる分野が広いと感じたため薬学部を選びました。現在は主に医薬品副作用の研究を行っています。薬の専門家になるためには、物理・化学・生物を基礎とする幅広い学問の修得が必要であり、学習を進める中で新たな分野に興味を持つ可能性も高いです。薬学で学ぶ知識はさまざまな分野で求められているため、卒業

創薬と医療薬学のスペシャリストを育成する

生命科学を基礎として薬の構造から機能までを理解し、

高度な薬学的思考力と倫理観を備えた創造性豊かな人材を育成します。

医薬品の研究開発、衛生行政、薬剤師など、多様な分野での活躍が期待できます。



薬学部長
吉成 浩一

後の進路は多岐にわたります。ただ、「薬や化学物質のプロフェッショナルとなること」は薬学部生の共通の目標だと思いますので、このことを忘れないで学習してください。



将来のために努力していることについて教えてください。

仁平:現在は、医療分野で役立つ知見やスキルの習得に励んでいます。将来的に医療に活かされる日が来ることを願いながら真剣に日々の研究に取り組む一方で、薬剤師としての専門知識の深化や実践的スキルの向上にも努めています。信頼される医療人

を目指し、今後も努力を重ねていきます。

吉成:薬剤師は「町の化学者」と言われることがあります。実際、薬学部では、他の医療系学部 비해、化学の学習時間が長く、卒業研究も充実しています。また、他の理系学部にはない、薬の応用に関する多様な科目が設けられています。視野を広げて学ぶことで、在学中に自分の適性に合った進路を見つけて欲しいです。

薬学部への入学を目指す受験生に、アドバイスやメッセージをお願いします。

仁平:本学は薬剤師資格取得に向けた学びとともに、研究活動にも力を注いでおり、幅広い知識と技術を身につけられる環境が整っています。この恵まれた環境を活かし努力を続けることで、幅広い分野で活躍できる力が養われるはずです。

吉成:4年制の薬科学科は、大学院へ進学し、将来は創薬や生命科学の研究に従事したいと考えている人に、6年制の薬学科は、専門性の高い指導的薬剤師や医療薬学の研究者を目指す人に入学して欲しいと考えています。卒業後は「薬学人」として社会に貢献するため、単に知識を習得するだけでなく、学習意欲と科学的探求心を持ち続け、学んだ知識を社会のニーズに応じて柔軟に活用できる人を求めています。薬の作用に興味がある方、薬で人々を救いたいと考えている方は、ぜひ薬学部を目指してください。





01
学科紹介
Class

高度な薬学的思考力と倫理観を備えた
創造性豊かな人材の育成を目指して



4年制

薬科学科

創薬科学者への道を開く

本学科は、医薬品の創製、研究開発、生命科学や環境科学に関する教育を併せ持つ総合的な学科です。薬学共通の基礎・専門・教養教育の後に最先端の科学を取り入れたアドバンスで充実したカリキュラムが用意されています。研究に力を入れ、創薬科学・衛生薬学の新たな基盤構築に貢献する人材の育成を目指しています。

▼ 卒業後の主な活躍フィールド

大学院進学	製薬企業や大学等で幅広く活躍できる高度な専門的研究能力を育成
製薬企業	新薬の研究開発のほか、MR(医薬品情報担当者)としても活躍
その他企業	化学や食品系の企業における製品の開発
大学研究室	大学での研究や教育

6年制

薬学科

高度医療を担う薬剤師・医療薬学研究者を目指す

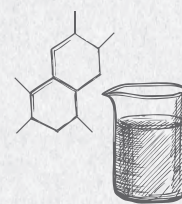
医療技術の高度化とともに医薬品の安全かつ適正な使用を推進するため、薬剤師には調剤業務に加え、服薬指導、服薬歴管理、処方設計の支援、リスクマネジメントへの参画、医薬品情報の提供、ならびに治験の推進といった業務が強く求められています。本学科では薬学の基礎・専門教育とともに医療薬学教育及び実務実習を行い、高度医療に貢献する人材の育成を目指しています。

▼ 卒業後の主な活躍フィールド

病院	調剤、服薬指導、服薬歴管理、処方設計の支援などの業務
保険薬局	保険調剤や服薬指導のほか、一般用医薬品、保健機能食品などの相談業務
公務員	薬剤師としてのみならず、保健衛生や薬務行政に従事
製薬企業	新薬の研究開発のほか、MR(医薬品情報担当者)としても活躍



多様な分野での活躍ができる 能力育成を考慮した授業展開



生薬学

処方としての漢方で用いられる植物由来の生薬を植物学的・化学的に鑑別し、それらを活用するための基本的技能を学修します。植物由来の生薬を鑑別し、その基本的な性質を理解するために、それらの含有成分、品質評価などについての基本知識及びそれらを活用するための基本的技能を学修します。



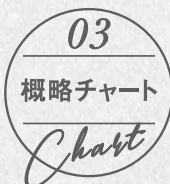
実務事前実習

薬学科の学生は臨床現場での実習に出る前に、薬学部棟にある模擬薬局で薬剤師の業務の基本となる知識、技能と薬剤師としての振る舞いを習得します。患者・来局者との医療面談や調剤、無菌調製などを練習するほか、フィジカルアセスメントなど新しく薬剤師に必要とされる技能も実習します。またグループ討議をしながら具体的に薬物治療計画を作成することで実践的な知識を学びます。



卒業研究

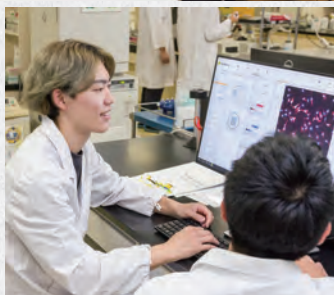
専攻学科によらず学部学生は、3年次後半より、研究室に配属されます。生物学、生理学、物理学、化学などの基礎学問から、薬理学、分析化学、製剤、毒性学、実践薬学など「薬」に関わるサイエンスまで、最先端のオリジナルな研究を行います。本講義では将来的に基礎生命科学、創薬、そして、より実践的な医療薬学領域の研究者として活躍するための素養を養います。



薬学の基礎や専門科目を 総合的に学べるシステム



研究室紹介



01 ピックアップ研究室

薬学科

浅井 章良 研究室

研究分野 **創薬科学**



近年、生命科学の技術革新によって従来の化学物質（低分子薬）に加えて、抗体や細胞など新たな創薬モダリティが登場し、臨床現場で優れた効果を発揮しています。そのため、これまで治療が困難とされてきた様々な疾患に対するアプローチも可能となってきました。さらに、疾患を遺伝子やタンパク質レベルで理解できるようになり、AIや計算化学などのインシリコ手法との組合せによって、手探り型創薬から合理的創薬への変革が進んでいます。しかし、その福音は一部の疾患に限定されており、まだまだ多くの未充足ニーズが残されています。当研究室では、新しい創薬コンセプトに基づく“くすりの種”の探索、設計と合成、薬効評価、機序解析の研究を展開しています。また、AIなどインシリコ技術の活用によって、“くすりの種”の化学構造と薬理作用を関連づけて解析し、より良質の“種”を生み出していく研究も行っています。“薬学らしい化学”を追求しつつ、腫瘍薬学や免疫学の学問領域を分子レベルで理解し、さらに最先端技術を取り入れることによって、がんや感染症などのアキレス腱を狙った“新薬シーズ”の研究開発に取り組んでいます。有効な治療法の確立されていない疾患で苦しむ方々の“HOPE & HELP”を目指します。

02 ピックアップ研究室

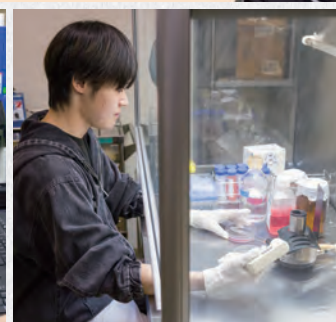
薬学科

梅本 英司 研究室

研究分野 **免疫微生物学**



免疫系は、ウイルスや細菌など様々な病原体から身を守るだけでなく、自己免疫疾患やアレルギー、生活習慣病、がんなど様々な疾患にも深く関与しています。身体の中で免疫細胞が最も多く存在するのが腸管などの粘膜組織です。腸管では病原体を排除しつつ、常在細菌に対する過剰な免疫反応を防ぐため独自の免疫機構が発達しています。また、腸内細菌は免疫系の発達だけでなく、様々な形で私たちの健康維持に深く寄与することが近年、明らかになってきました。しかし、これらのしくみには未解明の点が多く残されています。当研究室では、粘膜組織における免疫細胞の機能や、腸内細菌や食事などの環境因子が免疫系に与える影響を主に解析しています。特に、免疫応答の起点となる自然免疫系細胞（マクロファージや樹状細胞）に着目し、生理活性分子による機能調節機構やその感染防御における役割などを解析しています。また、免疫系の調節因子として感覚神経の役割も研究しています。このような基礎研究の知見を、効果的な経口ワクチンの開発や食物アレルギーの予防・治療法を含めた腸管免疫系の新たな制御法開発へと応用することを目指しています。



OB・OG紹介



テルモ株式会社

甲府医薬品工場 品質保証部 品質管理課 勤務

辻本 臨さん

2023年3月卒業

私は高校生の時に、医薬品を通じて患者さんの力になりたいと考え薬学を志しました。入学後には「患者さんやその家族の力になりたい」と薬剤師を目指す友人に出会い、そんな医療を支える人たちの力になることで、医療に携わって行きたいと思うようになり、医療機器メーカーに入社しました。現在は、国内外の製薬企業と共同で、医薬品と医療機器を融合させたコンビネーション製品の開発・製造に携わっています。在学中には統合生理学研究室で、生体に対して新たな効果を示す化合物の開発と評価を行っていました。薬学部は、医薬品や疾患に関することだけではなく、薬を中心とした様々な分野を学ぶことができる学部であり、そこで得られる知識や経験は大きな可能性を与えてくれます。みなさんが薬学部での学びと、たくさんの人たちとの出会いを通じて、自分の進む道を見つけられるように応援しています。

取得資格のピックアップ

▶ 取得できる資格一覧はP63参照

・薬剤師国家試験受験資格

薬剤師国家試験受験資格は、6年制薬学科の卒業生のみ与えられます。
4年制薬科学科卒業生は、薬剤師国家試験を受験することはできません。

その他の取得可能な資格

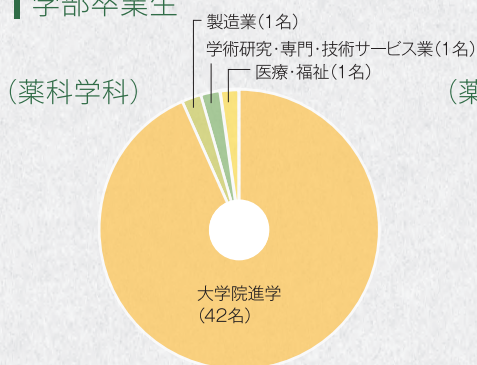
・臨床検査技師国家試験受験資格※

(薬科学科卒業生) ※臨地実習を含む指定科目の履修が必要

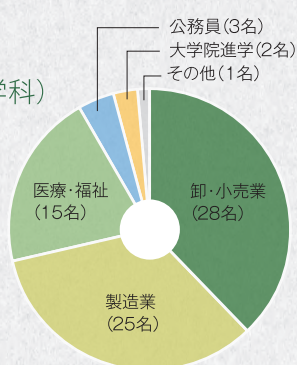
進路状況

2024年度卒業生

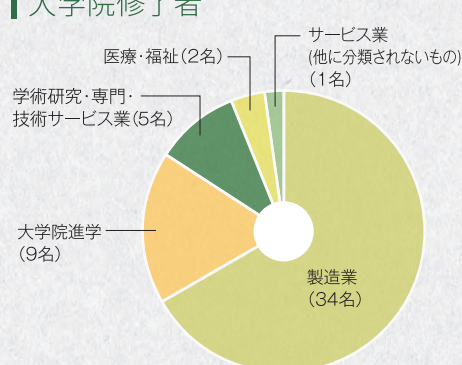
学部卒業生



(薬学科)



大学院修了者



主な就職先(過去3年)

武田薬品工業
アステラス製薬
小野薬品工業
大塚製薬
塩野義製薬
エーザイ
第一三共
協和キリン

グラクソスミスクライン
中外製薬
旭化成
日本たばこ産業
ファイザー
大鵬薬品工業
小林製薬
静岡県立病院機構

大学教員
国立病院機構
静岡済生会総合病院
聖隷福祉事業団
浜松医科大学医学部附属病院
名古屋大学医学部附属病院
ウエルシア薬局
杏林堂薬局

日本調剤
アインホールディングス
ヤンセンファーマ
医薬品医療機器総合機構
静岡県(薬剤師)
静岡市(薬剤師)

食品栄養科学部

School of
Food and Nutritional

■ 食品生命科学科 ■ 栄養生命科学科 ■ 環境生命科学科 入学定員 計70人



食品栄養科学部4年

佐野 那月さん

学生 × 学部長

特別対談

デアイとミライ

どのような研究や学びができるのか
教えてください。

伊吹:「食」は生命の基盤であり、ヒトの健康に大きく関わります。また、「食」と健康を守るためには豊かな環境が必要です。食品栄養科学部は、ヒトの健康維持に「食」が果たす役割と、持続可能で豊かな「食」を創造する方策を、食品科学、栄養科学、環境科学の3つの学問分野から探求、そして研究しています。佐野さんの志望理由は何ですか。

佐野:進路に悩んでいた時に、「食品・栄養・環境についての学びは、どんな職業に就いても活かせると思うよ」と

母に言われたことが大きなきっかけです。環境生命科学科を選んだのは、高等学校教諭理科一種免許を始めとする様々な資格に関連する講義が受け

られるので、将来の選択肢が広がると考えたからです。

伊吹:なるほど、それで環境生命科学科なのですね。「食」を中心とした広く深い学びが得られることが本学部の大きな特徴です。3学科の特徴としては、食品生命科学科では食品の生産・開発・評価などに関わる専門家を、栄養生命科学科では管理栄養士や食とヒトの健康に関わる専門家を、環境生命科学科では食と健康を支える環境づくりに貢献する専門家を育成しています。



現在行っている研究や学びについて
具体的に教えてください。

伊吹:多くの皆さんがイメージする「食」に比べ、本学部では「食」を中心としたもっと広いことを学びます。例えば、ヒトの健康を守るための食習慣・生活習慣、生物の力を利用した食資源の開発、安全な食や健康を守るための豊かな環境の維持など、食と健康、そしてそれを支える環境に関わる広い分野です。この広い分野を理解しつつ、3年生後半から配属される研究室では、専門性を極め、一つのことを追求していきます。佐野さんは、どのような研究をしていますか。

佐野:私が配属された研究室では、身近な環境に潜む化学物質のリスク評価についての研究を行っています。私自身の研究テーマはまだ決まっていませんが、化学と環境問題、水について等、自分の興味を研究

食と健康のフロントランナーを目指して

食べ物という物質面の学問として発展してきた食品学と、
生体内に入った食べ物の代謝や生体機能との関係を扱う栄養学と、
食物の生産と健康への影響に深く関わる環境科学を互いに融合させ、
「食と健康と環境」に関する諸問題を科学的に教育・研究することを目指します。



テーマに結び付けたいと思っています。

伊吹:これだと思えるテーマが見つかるといいですね。皆さんには「食」に関する様々なことに広く興味を持ちながらも、何か一つをとことん追求していく精神を培って欲しいと思っています。

将来のために努力していることについて教えてください。

佐野:大学卒業後は、地元の市役所で公務員として働き、生まれ育った町に貢献したいと考えています。公務員の役割は幅広いので、普段から様々なことに興味を持つことを心掛けています。講義や実習、課外活動などを通して、興味も知識も大きく深く広がったと感じています。

伊吹:興味を持つ、視野を広げることは大切です。多くの友達と関わりを持ち、違う考え方をベースに議論

するのも将来の自分を見出すための重要な学びです。また、本学では多くの学びが提供されており、全学共通科目などでは本学

部の授業だけでなく、他学部の内容も学ぶことができます。それらを広く吸収し、本学部の専門内容を勉強することで、自分の将来像を見出して欲しいと思います。



食品栄養科学部への入学を目指す受験生に、アドバイスやメッセージをお願いします。

佐野:目標がある人は、その道の知識を深め、確かな力を養うことができる。まだ明確な目標がない人は、食品や栄養、環境の幅広い学びを通じて視野を広げ、新しい

興味や夢を発見できる。それが食品栄養科学部だと思います。ここでの学びはきっと、未来を切り拓くきっかけになるはずです。あなたの可能性を広げてみませんか。

伊吹:本学部を志望する皆さんは少なからず「食」に興味を持っているはず。でも実は、皆さんの想像より「食」の世界は広く、深いです。また、科学としての「食」は心弾むほど面白いものです。そんな面白さを極めたいという学生さんに入学者として欲しいと思っています。





01
学科紹介
Class

「食と環境と健康の科学」を担う
人材の育成を目指して

食品生命科学科

**最新の生命科学を基礎に
食品の先端的技術開発を目指す**

食をめぐるさまざまな問題に対処できる食品技術者が必要とされています。そのために、化学、物理学、生物学、英語などの基礎科目と食品に関連した生命科学、工学を中心とした専門科目を幅広く配置し、食品成分に関する知識をもち、ヒトの栄養や生命科学を理解した、食品分野を先端的に担う食品技術者を育成します。

▼ 卒業後の主な進路

大学院進学	食品の生理機能解明や食品に関連する先端的技術開発研究
企業 (食品製造)	食品開発や品質管理・生産技術・食品製造(食品衛生管理者)など
企業 (その他)	化学・化粧品等の産業分野における商品開発・製造・品質管理など
公的機関	食品・衛生に関する行政指導・食品安全性検査(食品衛生監視員)など

栄養生命科学科

**食を通して
人間の健康と長寿を支える**

健康長寿のために、生活習慣病の予防・改善や食育の推進は重要な課題です。本学科では、栄養素の体内利用と機能について基礎から応用、さらに実践レベルまで幅広く質の高い教育を行っており、生命科学を理解した実践能力の高い日本のリーダーとして、また世界で活躍できる管理栄養士を育成します。

▼ 卒業後の主な進路

大学院進学	栄養代謝に関する基礎研究や疫学研究など
公務員	管理栄養士として行政、栄養教諭など
病院等 医療機関	病院・介護保険施設等における栄養管理や給食経営管理の実施
企業 (食品製造)	食品製造・香料・化学等の産業分野における開発・製造・品質管理など

環境生命科学科

**食と人の健康に関わる環境分野で
活躍できる人材の養成を目指す**

健康の維持・増進を図るためには、安全・安心な食品や水の確保が重要であり、生命の生存基盤となる環境や生態系を保つことが不可欠です。環境が食を育み、食がヒトを育み、そしてヒトが環境を育む、そのサイクルを学ぶことにより、環境科学と生命科学を基盤として食とヒトの健康に関わる環境分野で活躍できる人材を育成します。

▼ 卒業後の主な進路

大学院進学	環境保全や環境リスク・安全性評価に関する基礎研究や技術開発など
企業 (環境コンサルタント業・試験研究機関)	環境分析、環境リスク・安全性評価、環境アセスメントなど
企業 (食品、医薬品等製造業)	環境負荷低減技術の開発、安全性評価、環境分析・食品機能分析など
公務員	環境保全に関わる行政指導、環境施策の策定など



多様な分野での活躍ができる 能力育成を考慮した授業展開



解剖生理学

解剖生理学では、正常な人体の構造と機能を学び、栄養と健康の関連性を理解するための基礎を築きます。組織や臓器の構造と機能を学び、各器官系が協調して体内の恒常性を維持する仕組みを理解します。講義では、主要な器官系を取り上げ、専門職に必要な解剖生理学の知識を修得します。



分子生物学

水やミネラルを除く食物はすべて生物起源であり、我々ヒトもまた生物です。生物は様々な分子を栄養として獲得し、自身のもつ遺伝子の指令に従って栄養をエネルギーや自身の体を構成する様々な分子に変換し、生命を維持します。講義「分子生物学」では、遺伝子の「かたち」、遺伝子の「はたらき」、次の世代(や細胞)に遺伝子が伝えられる「しくみ」を学びます。

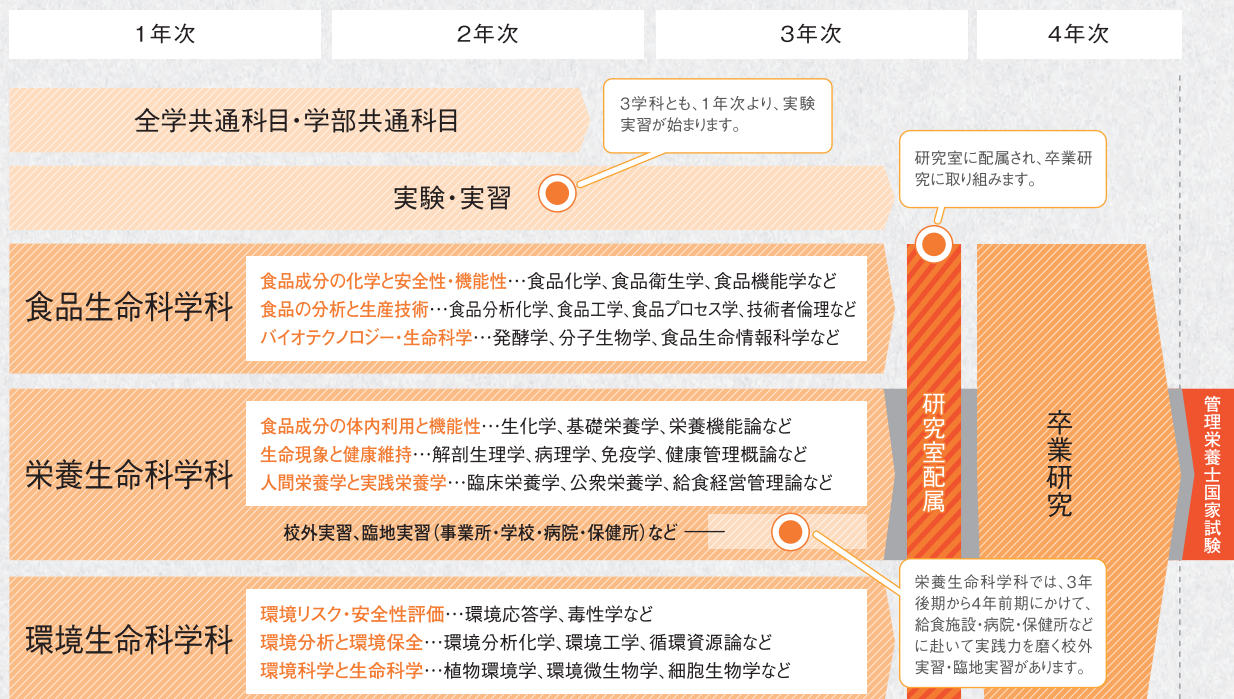


フィールドワーク

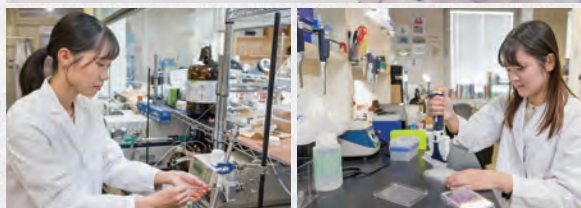
県内の環境フィールドに出向き、試料採取、現場観察、データ解析などを実習形式で学びます。今までに、天竜森林生態系における植生・野生動物の分布、樹木の生長に関わる環境因子(土壌特性、気象条件など)、森林土壌と河川水質の関連性などの調査をおこなってきています。また、食品加工業者や産業廃棄物処理施設を訪問し、産業活動により排出される廃棄物の処理方法や有効活用の現状なども学んでいます。



食品生命科学科と栄養生命科学科と 環境生命科学科の概略チャート



研究室紹介



01 ピックアップ研究室

食品生命科学科 熊澤 茂則 研究室

研究分野 食品分析化学

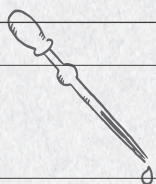


現在、特定保健用食品や機能性表示食品といった、いわゆる機能性を持った食品が市販されています。これらの機能性食品の中には、必ずその機能性に関与する成分が含まれています。機能性食品を開発するためには、その食材にどのような機能性成分が含まれているのかを解明する必要があります。例えば、静岡の特産物であるミカンには柑橘フラボノイドと呼ばれる成分が含まれており、この成分には認知症予防作用があることが知られています。他にも緑茶にはカテキン、ワサビにはスルフィニルと呼ばれる成分が含まれており、それらには抗菌作用や抗炎症作用があります。食品分析化学研究室では、このような食品中の機能性成分を解明するために、様々な分析機器を使って研究を進めています。

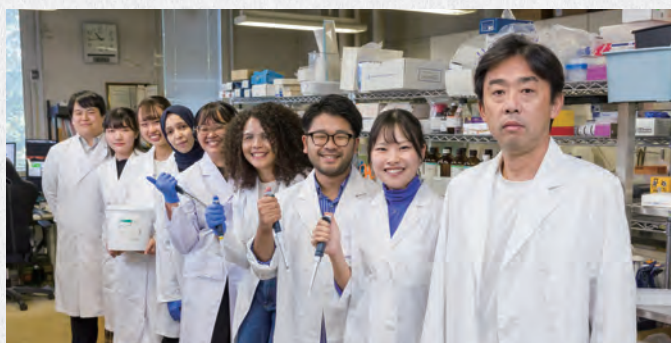
02 ピックアップ研究室

栄養生命科学科 三好 規之 研究室

研究分野 生化学



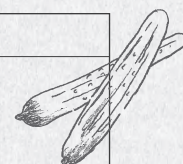
豊かな食生活は、運動・睡眠と等しく健康維持に重要な生活習慣病予防戦略であり、生体制御異常を正常化する様々な食品成分の作用メカニズム解析は、人類の健康増進・QOL向上・健康長寿へと繋がる研究分野の重要な一翼を担っています。一方で、生体の恒常性維持機構の破綻は様々な疾患の原因となるため、生体の生理病理的变化を解析することは、疾患の予防と促進メカニズムを理解するうえで非常に重要です。当研究室では、恒常性維持機構に関連する病態に依存した内因性分子の変化と食品成分による予防メカニズムに関する研究を展開し、食事が誘導する様々な表現型の分子機構の解明に取り組んでいます。



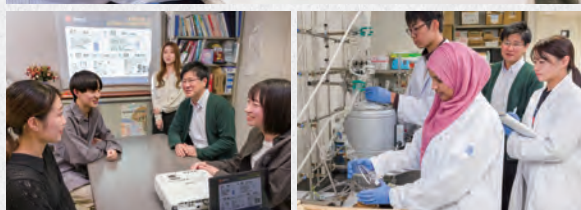
03 ピックアップ研究室

環境生命科学科 牧野 正和 研究室

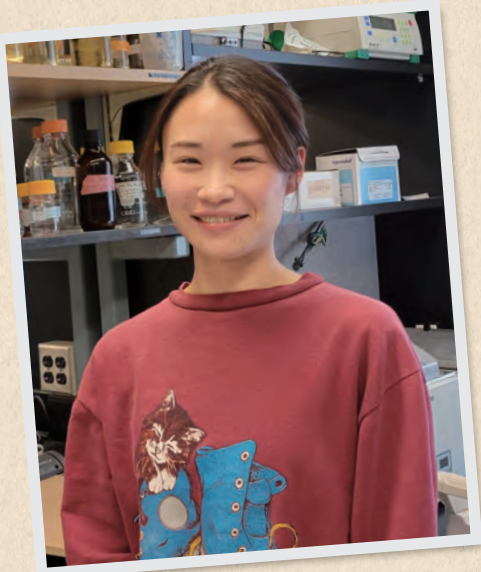
研究分野 物性化学



私たちの便利で快適な生活は、身の回りには多種多様な化合物(化学物質)によって支えられています。物性化学研究室では、このような生活環境の保全に役立つ化学物質を対象として、これらのリスク(生体や生態系に悪影響をおよぼす可能性)の解明を目指しています。特に、安定かつ経済的な食料生産を支えている農業の有効成分や、ゲーム機などのプラスチック製品に含まれ、火災被害を抑制している難燃剤等に注目し、これらが私たちの体内にどの程度取り込まれているのか?あるいは、今まで注目されていない新たなリスクは存在するのか?を明らかにすることで、食品や暮らしの安心に役立つ情報を提供することに挑戦しています。



OB・OG紹介



ジョンス・ホプキンス大学

医学部生理学分野 勤務

妹尾 奈波さん

2014年3月卒業／2019年3月博士後期課程修了

アメリカのジョンス・ホプキンス大学で研究員として働いています。栄養生命科学科では、管理栄養士に必要な知識や技術を得るための講義・実習に加え、食と健康に関する幅広い分野を学ぶことができました。その後大学院に進学し、研究活動をさらに深めました。先生方の親身なご指導のもと、多くのことに挑戦し、充実した日々を過ごしました。

現在は、栄養素代謝とエネルギー産生のしくみを脂質の側面から研究しています。県立大学に入学したときから持ち続けていた興味を、今もこうして追求できていることに喜びを感じています。研究活動を通して、様々な国の人々と交流し、意見交換する機会にも恵まれています。多様な価値観に触れ、刺激的な日々を送ることは、大きなやりがいにつながっています。県立大学での学びや経験が、皆さんの将来の選択枝を広げ、やりがいのある道に進むきっかけとなることを願っています。

取得資格のピックアップ

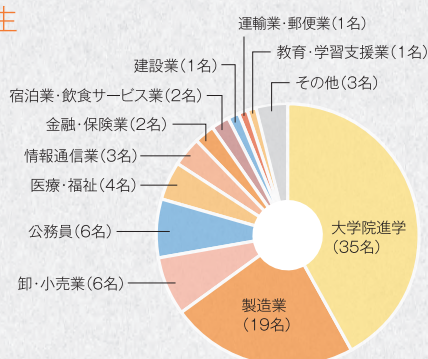
▶ 取得できる資格一覧はP63参照

食品生命科学科は、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けており、プログラム修了者は技術士補(農業部門)登録申請資格を取得できます。栄養生命科学科では、栄養士免許申請資格、管理栄養士国家試験受験資格を取得することができます(JABEE認定継続の場合)。また、所定の単位を修得すると栄養教諭一種免許状が取得できます。環境生命科学科では、環境計量士、放射線取扱主任者等の資格に関して、複数の講義に関連する知識を得ることができます。また、食品生命科学科及び環境生命科学科では所定の単位を修得すると、高等学校教諭一種免許状(理科)が取得できます。さらに、全学科において、食品衛生監視員、食品衛生管理者の申請資格を取得することができます。

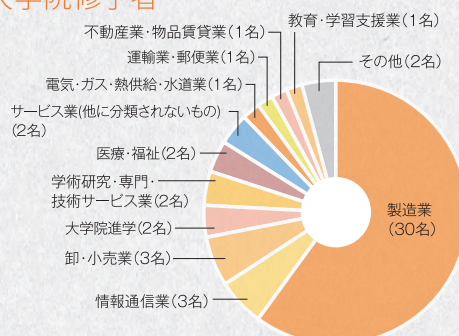
進路状況

2024年度卒業生

学部卒業生



大学院修了者



主な就職先(過去3年)

味の素食品	ホテイフーズコーポレーション	中外製薬工業	静岡県立病院機構
伊藤園	明治	パナソニック	三重大学医学部附属病院
カルビー	三生製菓	鈴与システムテクノロジー	浜松市立浜松医療センター
日清製粉ウェルナ	杏林製菓	静岡ガス	藤枝市立総合病院
山崎製パン	マルハチ村松	島津テクノリサーチ	静岡市(事務、栄養士)
日清ファルマ	ツムラ	中部電力	静岡県(事務、栄養士)
日本ハム食品	日立医薬情報ソリューションズ	いであ	
ハウス食品	資生堂	日本気象協会	